

校長室便り



(家庭数配付)

令和4年9月 1日
第5号
白井市立白井第一小学校
校長室発行

自分の考えを相手に伝える

学校生活が再スタートします。こどもたちは、行動制限のない夏休みに、今までできなかった経験を体験できたでしょうか。何よりも大きな事件・事故の報告なく今日を迎えられたことを嬉しく思います。

「行動制限のない夏休み」でしたが、新型コロナウイルス感染は猛威を振るっていました。実際、私は夏休み初日から家族が罹患し、自宅待機となりました。幸い私は感染しませんでした。人生で初めて同じ番号に100回以上電話をかけました。本当に発熱外来に予約を取るのに苦労しました。予約があつという間に埋まってしまう状況で、患者に対応していただいている医療関係者の頑張りに「感謝」です。最近、患者数がやや減少していますが、それでも厳しい状況は続いていると思います。学校としても、

○石けんでの手洗いやアルコール消毒の徹底。
○正しいマスクの着用とマスクを外して良い場面の指示。



○活動場所の換気を常に行う。

○人との距離を可能な限り取る。

○毎日の健康観察の徹底。など、今まで通り感染予防対策に十分注意しながら教育活動を行っていきます。各ご家庭でも、感染予防に留意していただき、特に本人やご家族に発熱等体調不良者がいる場合は、登校を控えるなどご協力をお願いいたします。

さて、今朝の全校朝会で子どもたちには、「自分の考えを伝える大切さ」について話をしました。今年も8月に白井市内全小中学校の代表者により「スクールサミット」が行われました。本校代表者3名も、世界のこどもの虐待や厳しい状況について堂々と発表しましたが、他校の発表も立派なものでした。「小学生でもきちんと考えて、自分の考えをしっかりと発表できる。」と改めて実感しました。今年、市長、教育長、教育委員、市議会議員の皆さんが参加されたので、是非子どもたちの提案の中で、実現可能な施策を選び、実現化していただければと思います。子どもたちが、自分たちの現状改善策を考える体験は有意義なことです。しかし、せっかく考えたことが実行に移されないと、子どもたちのやる気は出ないでしょう。実現可能な案については、大人が実行する、または子どもたちが実行できるよう手助けするべきだと思います。ちなみに、1994年に日本が批准した「子どもの権利条約」の中に「参加する権利」と呼ばれるものがあります。子どもたちが自分たちに関係することについて、自由に意見を表明することを保障した条文ですが、諸外国に比べ、日本の達成率が低い項目だと思います。



今学校では、子どもたちが学んだことを表現する力が高まるよう努力しています。どうしたら子どもたちが自主的に考えられるか、そしてそれを上手に表現できるかを模索しています。私は、子どもたちが意見を活発に出すためには「自分の意見が反映される。」ことが大切だと考えています。実際、昨年度から事務の浅井先生が子どもたちに、学校にあったらいい物、直してもらいたい物をアンケート調査し、実現可能で必要と判断した物を購入したり修理しています。子どもたちの意見をより良い学校作りに反映しています。判断に窮するときもありますが、今後もこの姿勢は維持し、教師と児童が協力して学校作りに励んでいきます。また、建設的な意見だけでなく、相談箱やアンケート、教育相談等で子どもたちの困り感も吸い上げていきます。子どもたちが自分から、SOSを出せるよう支援していきいますが、ご家庭でも気になる言動がありましたら遠慮なく各担任にご相談ください。よろしくお願いたします。